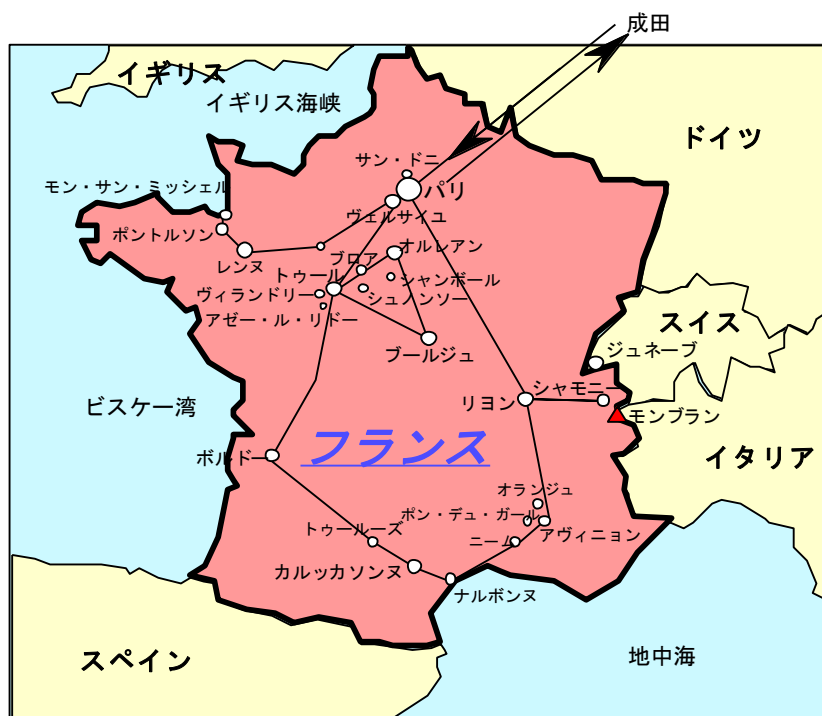
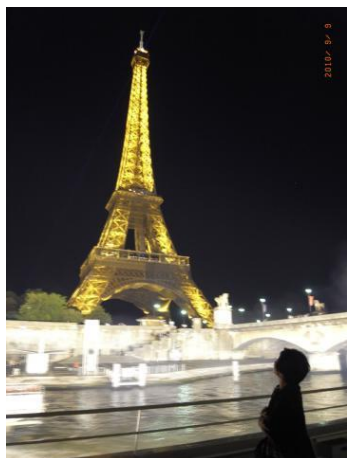


フランス鉄道の旅

2010 8月24日(火)～9月10日(金)



ヴェルト針峰（シャモニーから）

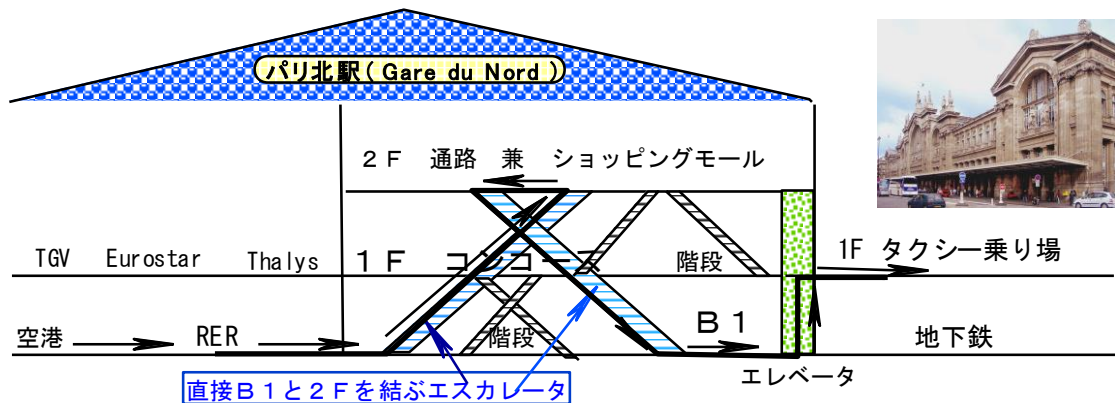


ポン・デュ・ガール（古代ローマ水道橋）



ヴィランドリー城（ロワール渓谷）

苦勞したパリ北駅



空港から RER（高速郊外鉄道）でパリ北駅 B 1 に到着。

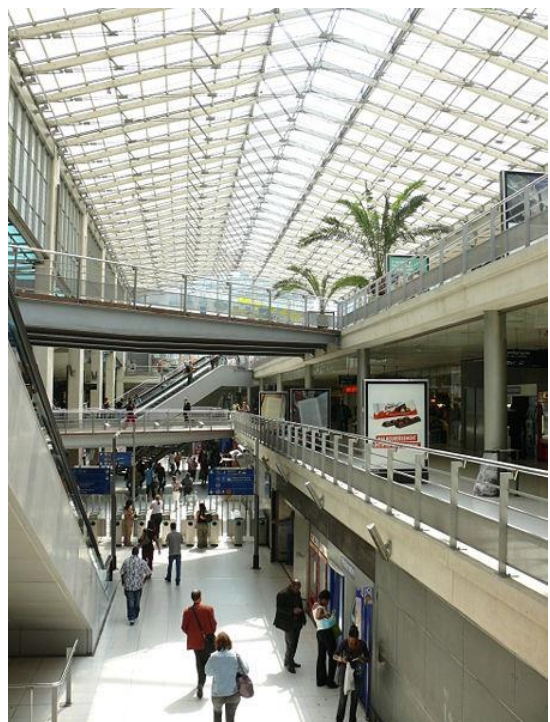
1 F のタクシー乗り場に行こうとして、エスカレータに乗ったら、いきなり 2 F に、間違いに気付き、1 F に降りようとしてエスカレータに乗ったら B 1 に戻ってしまった。

大きな荷物を持っているので、階段を使うことが出来ない。

1 F のタクシ乗り場の標識が見えているのになかなかとり着けない。暫くうろうろした結果エレベータを発見。エレベータに乗り何とか 1 F のタクシー乗り場にたどり着いた。



Sortie（出口）↓印は降下ではなく直進の意味



左側に見えるのが B1 と 2 F を結ぶエスカレータ

8/24(火) 晴れ

成田 → パリ シャルルドゴール空港→ホテル（モンマルトルの丘付近）

朝から暑い、6時10分前に自宅を出発し、首都高で成田に向かう。車はそれなりに多いが順調に流れ、予定通り空港近くのパーキングに到着。車を預ける。

EチケットにはJALと書いてあったので、第二ターミナルへ行ったが、エールフランスとの共同運行で、運行の主体はエールフランスだった。急遽、第一ターミナルへシャトルバスで移動。30分程時間をロスしたが、余裕を持って家を出発したのがよかった。両替、¥112/€、2年前は確か¥160/€程度だったので助かる。

その後、順調に飛行機に乗り込む。満席だ。映画もなかなか良いのが見当たらない。やっと最後のほうで、「アリスインワンダーランド」を見付けることが出来たが、日本人向け映画はあまり上映されていない。さらに機体が古いせいか、液晶ディスプレイが見つらくてしかも操作がとても難しかった。約12時間の長旅の後、最後に機長の着陸の仕方が上手だったので、後ろの方の席から、拍手が沸いた。

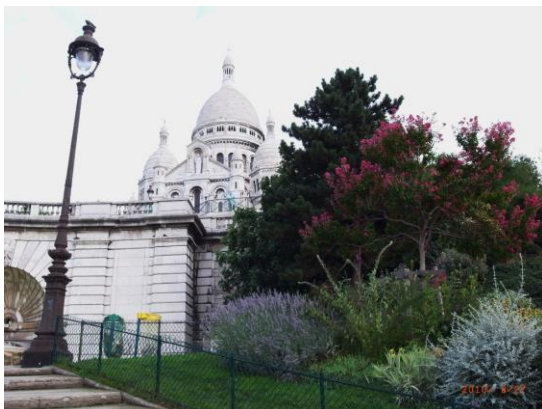
シャルル・ドゴール空港に着いてからは、RER（高速郊外鉄道）でパリ・ノール駅（北駅）まで、8ユーロ。そこから、タクシーでと思ったが、なかなかタクシー乗り場に行くことができない。人が多い。迷彩服に銃を持った軍の人が3人で、パトロールしている。

地下1階からいきなり2Fに行ったり、矢印の↓が、前進だということが分からず下に降りてしまったり、重い荷物を引いて行ったり来たり。1Fタクシー乗り場の標識が見えているのに辿り着けないのだ。それで、またまた元に戻って、初めからやり直し。やっとのことでタクシー乗り場に行くことができた。幸い、タクシー乗り場は空いておりすぐに乗ることが出来た。

モンマルトルのホテルまで、6ユーロに荷物2個分で、8ユーロ。運転手さんの早口のフランス語は勿論全然解らない。おまけに英語の8がアイト（エイト）だった。黒人の多さに驚く、更にアラブ系の人達も大勢。

ホテルは大きな通りから中に入ったところにあった。ホテルの近くに小さな劇場があり、その横の公園には浮浪者の様な人がいてちょっと気味が悪い。

アパートホテルには、フロントが有り普通のホテルと変わりがない。但し夜遅くなるとフロントは無人となる。宿泊客には入り口のオートロックの暗唱番号が教えられ、勝手に出入りすることが出来る。



モンマルトル サクレクール寺院



アパートホテルの玄関

フロントでスーパーを教えて貰う。ムーランルージュ方面にスーパーのカルフルはあった。日本のカルフルに比べて小さくコンビニの2倍程度の大きさ。日本と違い、サービスはきわめて悪い。買ったものをバスケットから取り出し、ベルトコンベアに載せ、料金を払い、お釣りを貰い、レジ袋に買ったものを詰める。すべて自分で。ワイン、ビール、水など重い物を買うと後が大変だ。夕方なのでレジはお客さんでいっぱいだった。



モンマルトルの丘から見たエッフェル塔



道路見たアパートホテル（レストランの上）

夫はテニスの仲間から、モンマルトル付近は物騒だから宿泊しない方が良いと忠告されていたようだ。その通りだ！モンマルトルの丘からパリの夜景を眺めるのが狙いの様だが、とても夜出かける気にはなれない。

8/25(水) 晴れ

サクレクール聖堂 → ヴェルサイユ宮殿 → サン・ドニ

サクレクール聖堂が近くなのでケーブルで登り、朝のパリの街を眺める。ホテル近くの地下鉄アンヴェール駅で、パリビジットのチケットを買って2人で57ユーロ。これで、電車バス乗り放題に。乗り換え2つでヴェルサイユ宮殿のリブゴージュへ駅に到着。今日は宮殿の中ではなく、庭を見学する。



ヴェルサイユ宮殿の入り口

庭へ行く途中にトイレがあったが長い行列ができていて困った（宮殿の中はトイレが少ないので有名）。とっさに反対側にあったカフェに入ることにした。昼食用のサンドイッチと飲みものを買う。思った通

りトイレはその先にあった。ここはとても空いていた。男女兼用の個室トイレで広々だった。

庭へ行くのは無料。プチトラン（6ユーロ）に乗り、庭を廻ることにする。とにかく、ものすごく広いので、歩いていたら大変。プチトリアノン（ルイ15世の離宮）は、12時開場だったので、まずキャナルで降り、先程購入したサンドイッチで昼食。時間になったのでプチトリアノンへ行こうとしてトランに乗ったら、最初の所に戻ってしまい、また乗り直した。



プチトランに乗って出発



ヴェルサイユ宮殿の庭



サイユ宮殿

アポロンの泉とヴェル



キャナルで見かけた美少女



ルイ14世騎馬像

マリーアントワネットの離宮としても有名なプチトリアノンに入場。愛の殿堂は入り口のすぐ近くにあった。しかし茅葺き屋根の家が集落、王妃の村里が見付からない。かなり歩いてやっと辿り着けた。牧場が有って、ぶどう園が有って園内をのんびり見学した後、プチトランの乗り場へ戻ろうとしたが今度は出口なかなか見付からない。沢山歩いて、最後は家族ずれの観光客に聞いてやっと出られた。



プチトリアノン



愛の殿堂



王妃の村里



王妃の館



マリーアントワネット（プチトリアノン内）

RER で、さらに地下鉄13番でサン・ドニへ、ここは、フランス王家の墓のあるバジリカ聖堂がある。マリーアントワネット、ルイ16世も眠っている。ステンドグラスも見事であった。

カルフルで、買い物をして帰った。乳製品が安い。魚は鱈、鯖があったけど。とても買う気のするようなものではなかった。



サン・ドニ バジリカ聖堂



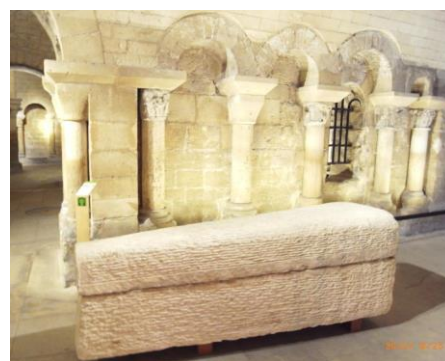
聖堂中央のバラ窓



王家の墓所



フランソワ一世の墓



王の石棺

8 / 26 (木) 曇り

パリ北駅→パレ・ロワイアル→コンシェルジュリー→サント・シャペル→アンバリッド

北駅で、「ユーレイルパス」のバリデーションに苦労した。初めに見付けた RER の INFO では、10 番線にある INFO に行けと言われた。そこでは後ろにある切符売り場に行けと言われた。そこで、並んでいると、「これはTGVの予約チケットがないとダメだ」といわれる。夫が「日付押印のみでいいはず」とねばり、順番が来たので行くと「ここは、違うあちらの窓口へ行けと」手で指示された。言われた方で、並んでいると「ここは並ぶところではない」、最初に並んでいたところで並べと注意された。それで、「どこへ並べばいいんだ。さっき駅員に駄目だと言われた」と夫が食い下がっていると、「英語が分かるか」と言いながら近くにいた英国人？が助けてくれた。「イギリス国旗のマークのある窓口に行けばいい」と教えてくれた。やっと順番がきて、パスの使用開始の日付を捺印してもらうことが出来た。結局、英国国旗のところとは、インターナショナルチケット売り場の窓口で、その係りの人が、VALIDASION が出来ることが分かった。



キップ売り場 1F バリデーションで苦労した パリ北駅 1F コンコース

これに手間取り、頭はかなりきていたが、気を取り直し、バス 48 番で、パレ・ロワイヤルを通過してコンシェルジュリーへ。バスの方が、景色が見られるし、階段の上り降りがなく楽である。地下鉄はほとんどエスカレーターがない。コンシェルジュリーではマリーアントワネットの独房が公開されている。その時の肖像画もあり、せつない思いが募る。



パレ・ロワイアルで一休み



セーヌ河とコンセルジュリー



マリーアントワネットの晩年肖像画



独房の中

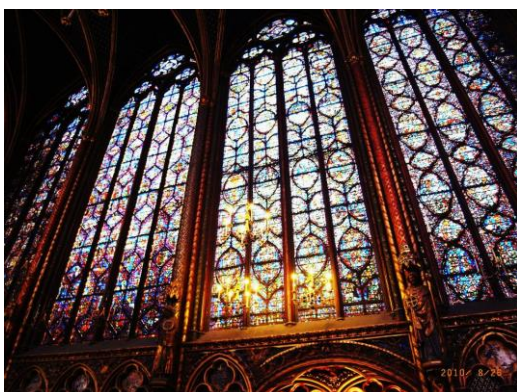


フランス革命



セーヌ河の畔のカフェで

サント・シャペル（8ユーロ）は、荷物チェックが厳しかった。隣が最高裁判所のせいかもしれない。事実、最高裁判所の敷地を一部分通って外に出たような気がした。それにしてもステンドグラスのすばらしさは言葉もない。壁や天井の模様も今まで見たものとはひと味違っている。ノートルダム大聖堂と同じ頃の建立だそう。前面の祭壇が修復中なのは残念だった。



サント・シャペルのステンドグラス

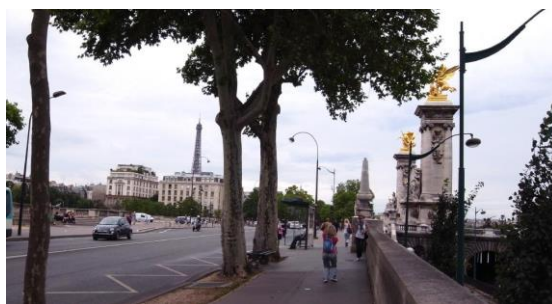
さらに地下鉄に乗り、アンヴァリッドへ。ここはナポレオンの墓があるのだが、疲れてきたのと入場券が高いので？あきらめ近くのレストランで昼食。スパゲッティ、サラダ、水一人前で、27ユーロ。ちょっと高いかな。セーヌ河岸のこの辺りは広々として綺麗である。



アンバリッド



ナポレオンの銅像



アレキサンドル三世橋



グランパレ

アレキサンドル三世橋

プチパレ

地下鉄を乗り継いで帰るのだが、どんどん電車は混んでくる。途中の乗換え駅（プラス・ド・クリシー）のこと、アナウンスが仏語、英語・独語・・・それに日本語であったのには驚いた。突然だったので、正確には覚えてないが、「スリにご用心」といった内容だった。

電車の中でのこと

1. ヴェルサイユへの電車では急ににぎやかになったと思ったら、アコーディオンの演奏を数人でやりだし、終わったら、お金をねだられた。
2. 地下鉄の中では、何かブツブツ言った後やはりお金をねだられた。
3. 電車の中から見える外の壁という壁みんな落書されている。汚いな。

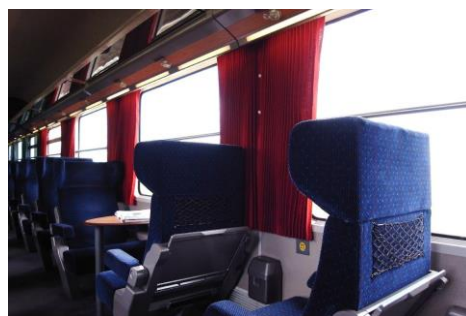
8 / 27 (金) 晴れ

パリ・モンパルナス→レンヌ→ポントルソン→モンサンミシェル

今日はモンサンミシェルを目指す。タクシーを頼んでいた。9時15分丁度に出発。モンパルナスまで28ユーロ。初めてTGVに乗る。何番線に入るかは、15分ぐらい前にならないと、電光掲示板に表示されない。皆、上を見上げている。表示されると一斉に動き出す。ずっと前からわかっているはずなのに何なのかしら。

これはどんな駅でも同じだった。1等車は3両ぐらい連結しているが何号車かは、外側には書いてなくて、電車に乗ってすぐ上の方に小さく書いてあるだけ。それを見つけるのも結構大変。入ってみたいと分からないなんてこともある。

座席はゆったりとしており、No1は向かい合わせ又は一人席（写真参照）、No2の方は4人のコンパートメントになっている。椅子が日本人には大きすぎて、足が下に届かず、全然リラックスできない。乗り心地は新幹線の方が断然良い。約2時間でレンヌ到着。



バスで行くにしても電車で行くにしてもまだ2時間ほどあるので、ここで昼食にする。レンヌ駅構内はそれなりに大きく、カフェなどもいくつもあった。夫はバスターミナルを確認に出かけた。入ったレストランでムール貝を食べている人がいたので、同じ物を注文する。ボールのような食器にいっぱいの貝とポテトで、一人前約¥600で安くてとても美味しかった。帰って来た夫にも分けてあげた。夫はテニスの仲間の人からこの地方に行ったらムール貝を食べるように言われていたようだ。美味しいムール貝が食べられて大満足であった。



レンヌ駅は、モンサンミッシェルの最寄り駅のひとつなのに、何の案内もないのだ。日本なら、さしずめ「ようこそモンサンミ歇尔へ」などとポスターがいっぱい貼ってあり、お土産なども売っているはずなのに！！。

長距離バスターミナルは駅から徒歩3分足らずの所にあった。チケット売り場は長蛇の列。大きなバスターミナルで、モンサンミッシェル行きの乗り場がどこか分からない。近くの人に聞いてもモンサンミ歇尔など知らないと言われた。夫がバスターミナルの隅々まで見て回ったがモンサンミ歇尔行きを見付けることが出来なかった。チケット売り場は相変わらず長蛇の列だ。仕方なくあわてて、スーツケースを転がして駅まで戻った。事前に時刻表を調べておいて良かった。



修道院最上階の回廊



修道院附属教会の尖塔 最先端に大天使ミカエル像がある

14時50分発車。ローカルの電車といってもかなりスピードが出ている。途中から上下運動が激しくなってきた、ちょっと心配になる。約50分で、ポントルソンに到着。駅からモンサンミ歇尔までのバス便がないのがわかっていたので、タクシーがあるかどうか心配だった。運良く1台とまっていた。大急ぎでそれに飛び乗り、やっとホテル「ルレ・サンミ歇尔」に到着。14ユーロ（荷物込み）で15分ぐらい。部屋から、彼の地が見える素晴らしいホテル。特に良いのは、トイレとバスは別々の作りになっていること。

早速、島まで歩いて行くことにする。すぐそばに見えるのだが、島まで30分位かかった。帰りも歩くのかと思うとちょっと気が重い。島の入り口にバスが停まっているので、運転手さんに聞くとホテルの方面に行くバスはあると言う。帰りはバスだ、よかった。バスの時刻を確認した後、島へ入って行くと両側はお土産物屋さんでいっぱい、名物のオムレツ屋さんもあった。階段を登って、登って、一番上まで、疲れた。しかし上から眺める景色は素晴らしい。

下りてきて、18時25分発のバスに乗った。1つ目の、マルシェ(マーケット)の前で停まる。マルシェに寄ってみると日本人がいっぱい。夕食は彼の地を眺めながら。段々日が暮れライトアップされ、見事である。



サン・ミカエル像（尖塔にある像のレプリカ） ガラスが入っているので落ちる心配はない



ホテルのレストランから



ホテル ルナ・サン・ミッシェル

8 / 28 (土) 晴れ

モンサンミシエル→レンヌ→パリ・モンパルナス→サンピエール・デ・コール→トゥール

朝、まだ星がたくさん出ている。日の出は7時20分頃なのだ。暗いうちから、散歩しているのはほとんどが日本人だった。目が合うとお互いに軽くお辞儀をするのですぐ解る。

今日は、パリ経由でロワール古城観光の起点の町トゥールを目指す。昨日降りたレンヌ行きのバス停に行くとするで待っている人達がいて、聞いてみると間違いなくレンヌに行くという。6月にワールドカップサッカーが開催された南アフリカからのご夫婦、夏休みを利用して仏語の勉強に来たという関西の女子大生2名といっしょバスを待った。

時間通りバスが到着。終点レンヌで降りるとなんとそこは、昨日バスを探していて見つからなかった乗り場だった。何故昨日解らなかったのか？もっと良く聞けばよかった。世界遺産モンサンミシエル行きはこちらですと書いておいてくれ!!! 日本ならこれぐらい当然でしょ。



朝焼けのモンサンミシエル

レンヌで乗ったTGVでは、席が4人のコンパートメントだった。向かいの席は初老の紳士で、フランス人としては英語がとても上手であった。夫がフランスの地図を広げると、フランスの見所、ワインの話など、色々教えてくれた。夫がお世辞のつもりで、“Are you an English teacher?”と聞いたら本当に中学か高校の英語の先生だった。リヨンに行く予定であることを告げると、突然第2次世界大戦の話になり、ナチスドイツによって父親がリヨン付近で殺された話をしてくれた。ドイツ落下傘部隊に背後に回られ撃たれたそうだ……。元英語の先生は、自動車レースで有名なル・マンで下車し、ノルマンデーの自宅に帰って行った。

モンパルナスの駅では、TGV 私たちの座席指定車の12号車が見付からない。先頭まで歩いていくが分からない。もう時間がないとあせった。どこでも飛び乗ろうとしたとき、駅員さんを見つけ聞くことが出来た。何号車かが列車の外側に書いてないためこんなことになるのだ。それに後ろから11・12・13号車それから、1・2・3号車の順に繋がっていたのだ。

この列車はトゥール中央駅までは行ってくれない。サンピエール・デ・コールで降り、超ローカル線に乗って、7分でトゥール中央駅に到着。新幹線で大阪に行くのに新大阪でおり、大阪に行くようなものかしら。しかしこの線、ホームと電車の高さが違いすぎスーツケースを持ち上げるのが大変だった。

ホテルは駅から徒歩5分、アパートホテル「シテア・トゥール」、賑やかなところとは反対方向にあり、ちょっと寂しい。でも日本人観光客も泊まっていたメルキュールやイビスなど、有名なホテルが近くはあるのだけれど。



トゥール駅中央前



電車からみたアパートホテル



トゥール駅中央に停車中のTGV（トゥール駅中央までTGVが入って来るのに、手前の駅サンピエール・デ・コールで降ろされるのは何故？）



駅前の商店街の入口で行列の出来ているパン屋さんを見付けた。しばらくすると行列が無くなったので店に入ってみる。一つ一つが大きくて、おばさんが手づかみでパンを取って袋に入れるのだ。ブリオッシュのようなパンだったけど全然美味しくない。なぜ行列が出来るのか不思議。日本のパンを食べさせてあげたい。フランスパンのような堅いパンではなく、柔らかいのがよくて人気だったのかしら。

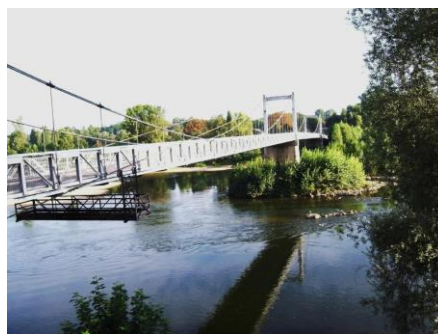
駅近くのバス会社で、明日の古城観光のバスツアーの切符を買い、ホテルに戻る。1人51ユーロ。

フランスの国鉄のことに一言

- 1 長距離電車は改札がなく、乗ってから車掌さんが必ずチェックに来る。
- 2 ホームが電車より低いので、2、3段あがらなければならない。荷物を持っていると大変。
- 3 何号車かは外側からはわかりにくい。
- 4 1等車は電車の前か後ろ、日本のグリーン車のように連結の真ん中付近ではない。



トゥール城



ロワール川にかかる橋

8 / 29 (日) 晴れ

ロワール川古城巡りツアー

8時過ぎ、駅で、昼食用のパンを買う。歩いて近くの教会、川まで散歩した後、ツアーバスの集合場所へ。バスは12人乗り程度の黄色のワゴン車。スペイン人の夫婦、米国人か英国人1名、中国人の女性1名、我々と計6人。9時15分トゥール駅前を出発。30分位で最初のお城、ヴィランドリー城に到着。運転手さんは仏語と英語で、案内する。集合時間は彼オリジナルの時計で教えてくれる。小学校の先生が使うような時計、これなら一目瞭然、聞きのがしても間違いはない。

ヴィランドリー城は庭がとても綺麗なので有名だが、その通りとても美しかった。城内と庭両方見学するのは大変なので、庭だけにする。切符は運転手さんが買ってくれる。お城の入場券はツアー代金には含まれていなかった。4ユーロ。10時45分、次のお城アゼー・ル・リドー城へ、小さなお城で池に映る城の姿が美しい。6ユーロ。

12時にトゥールに戻る。



ヴィランドリー城



ヴィランドリー城



アゼー・ル・リドー城

急いで、昼ご飯を近くの広場で食べ、集合場所へ。昼からは先程の中国人女性と我々だけになった。シャンボール城へは1時間ぐらいかかった。途中はトウモロコシ畑、ひまわり畑、時々綺麗な街をぬけていく。

中国の人は武漢出身、デュッセルドルフで、仕事をしていて、休暇で来たという。英語、ドイツ語、ロシア語少々勿論中国語 OK。ドイツで、3年間ドイツ語を学び、仕事に就いたというキャリアウーマン。ヨーロッパはかなりあちこちまわったと言っていた。

シャンボール城はとてつもなく大きくみごとであった。8ユーロ。



シャンボール城



武漢出身の中国の女性と



シャンボール城



シャンボール城 ダ・ヴィンチの二重螺旋階段



駐車場から城に通じる並木道

シュノンソーは、水に浮かぶ城で有名なお城。観光船が城の下を通り抜けて行った。彼女とはここで
お別れ。すぐ近くの駅からトゥール経由でパリに行き、更にジュッセルドルフまで今日中に帰り、明日
は仕事とか。



シュノンソー城



河の上の大回廊



シュノンソー城



遊覧船が大回廊の下をくぐり抜ける



古城巡りのガイドさん兼バスの運転手さん、地球の歩き方の本に登場する人だった

ところでガイドブック「地球の歩き方」には、この古城巡りの案内が載っていて、写真も掲載されている。今回のガイドさん兼運転手さんが、写真に掲載されている人にそっくりなので聞いてみたら、その人だった。こんなこともあるのだ。帰りの車は我々のみ。予定より10分早く到着。日曜日なのでお店は全て閉まっている。仕方ないのでそのまま帰る。冷蔵庫に食べ物が残っているはずだ。

8/30（月）晴れ

トゥール→ブルジュ→オルレアン→ブロア→トゥール

今日は、ブルジュへ。8時45分発10時9分到着。電車の中でトイレに言ったが、開け方がよくわからないで困っていると、近くの人がボタンを押せと言ってきてやっと分かった。こんどは閉まらないので、またまた困った。いろいろボタンを押していたら閉まってくれた。ブルジュの駅から、サンテティエンヌ教会までは歩くと20分ぐらいしかも坂をのぼるので、タクシーに乗った。4.7€と出ていたはずなのに何故か6€とられた。



ブルジュの町



サンテティエンヌ大聖堂

ここはとても綺麗な街だ。教会のステンドグラスは上の方ですばらしい。教会の中に切符売り場で訳もわからず並ぶ。上か下かと聞かれたので、上と答えて切符を買ったら、すぐ横の堅くて重い扉を開けてくれた。螺旋階段がずーっと続いていて、行けども、行けども先が見えない。やっと着いたと思っ

たら、教会の塔の屋上だった。100m位あったと思う。360度の大パノラマ。地平線が見えた。螺旋階段をぐるぐると下って行くと、先程塔の上で一緒だった、おばあちゃんと孫の2人連れ、一生懸命階段の数を数えながら降りて来た。仏語は数の数え方がすごくむずかしい。特に60以上になると。小さな空間におばあさんと孫のフランス語が響き渡った。



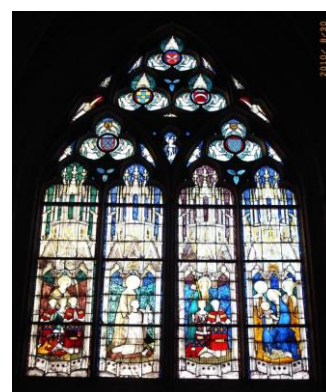
教会の塔の螺旋階段



登り切った所に屋上に通じる出口がある



サンテ・ティアヌヌ大聖堂の屋上 おばあちゃんと孫の二人ずれ（右側）も登ってきた



見事なサンテ・ティアヌヌ大聖堂のステンドグラス



サンテ・ティアヌ大聖堂



昼食をとった駅近くの公園

ただ今教会は正面が修復中。プチトランもある。教会から、坂を少しずつ下れば駅へ行くことがわかり、歩いて行くと途中で、先程のプチトランとすれちがった。あのお婆ちゃんと孫の2人連れが乗っていた。思わず手を振った。

パン屋で、サンドイッチを買い、駅近くの公園で、昼ご飯。パン屋さんではキッシュも売っていた。ケーキのように一切れずつ売っていて、とても美味しかった。

こちらでサンドイッチというと少しや柔らかめフランスパンに挟んでいるのが普通である。今日買ったのは、少し雑穀などの入った食パンで、アメリカンサンドと言っていたかなあ。しゃべっても分かりにくいので、指さして、注文するものだから、ちゃんとした名が結局分からない。

昼からはブロア城へ行くことにする。当初オルレアンに行く予定であったが、昨日の「地球の歩き方」に登場するガイドさんがオルレアンよりブロワの方が良いとアドバイスしてくれたので急遽ブロワ城に行くことにした。夫はオルレアンの少女（ジャンヌ・ダルク）に会いたかったようだが。

12時32分発オルレアン行きに乗る。オルレアンで乗り換えて、ブロア駅まで。駅を出ると右手へ歩いて行ったが、突き当たってしまう。広場のようなところを通り抜け、公園で方向が分からなくなり、近くにいた女の子に聞く。真っすぐ行けば大丈夫と教えてくれた。公園を突き抜けるとやっとお城が見えてきた。すぐ前のマジック博物館の窓で何やら愉快的な催し物があった。城は一つの中庭を囲む4つの建物から構成されている。歴史に登場するキーズ公爵殺人事件（アンリ公爵）の現場の部屋などを見学した。



ブロワ城



ブロワ城入り口（ルイ12騎馬像）



マジック博物館（時々恐竜が窓から顔を出した）



フランソワ一世の像



ギーズ公暗殺事件の現場の絵



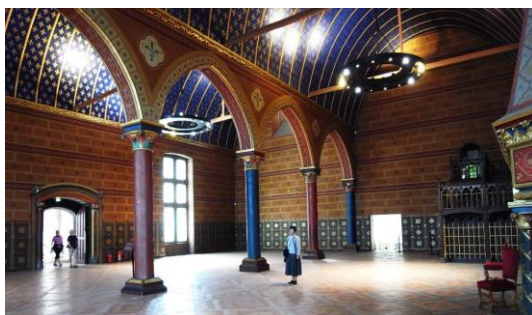
ブロワ城ゆかりの人物



ブロワ城全景



ブロワ城前の庭



ブロワ城内



駅に戻る。駅中のカフェで、コーヒープレイク。女性トイレはドアに鍵があるので有料かと思い50セント入れた。けれど開かないので、店の人に文句を言う。するとゲームコーナーのコインのようなものを渡され、入れてみたが、さらに開かなくなってしまった。最初に入れた50セントが詰まってドアが開かなくなってしまったようだ。壊してしまったのかしら。おじさんが道具を持ってトイレの入り口に消えた。ガタガタさせて直してくれ、やっと許可がおりました。再度コインをもらってトイレに入ることができました。さっきの50セントは勿論戻ってきませんでした。



トゥールのプチトラン



サン・ガルシア大聖堂

16時35分プロワ駅発は急行だったらしく、余り停まらず、17時10分頃、トゥール中央駅に到着。まだホテルに戻るのは早すぎるので、スーパーで買い物をし、18時発の市内観光のプチトランを待った。

トゥールは、歴史的には有名な町。西暦700年代、進行してきたイスラム勢力を食い止めた、トゥール・ボアティエの戦い、英仏百年戦争では、パリを追われたフランス王が居城を構えたのがトゥールの町を中心とするロアール地方だ。町の中心には、シャルルマーニュ（フランク王国のカール大帝）の古いモニュメントもある。

我々を乗せたプチトランが、両側レストランでいっぱいの所を走り抜けた時には、皆が食べている料理が見える位に接近して走ったので、とてもおもしろかった。最後にサン・ガルシア大聖堂にも5分間停まってくれたので立派なステンドグラスを見ることが出来た。



レストラン街を走るプチトラン

トゥールのこのアパートホテルは激安ホテルで、一泊69ユーロ（2人分）。土、日は夜6時に外のドアを閉めるので、暗証番号を教えてくれる。実際、日曜日はこれで入った。ドライヤーなし、テレビの番組表なし、台所用洗剤なし、スポンジなし。なしなしで、安いのかな？窓の外は駅構内なので、電車がよく見え鉄道マニアなら言うことなしたが……。幸い二重窓なので、窓を閉めれば電車の音は全く聞こえなかった。



ホテルの窓から電車が良く見えた

8／31（火）快晴

トゥール→ サンピエール・デ・コール→ ポアティエ→ボルドー → カルカッソンヌ

早朝約7時出発。7時47分発に乗る予定。前日、フロントの人がまだ来ていないので部屋の鍵はどうしたらよいか聞いておいた。鍵は言われた通りそのまま部屋に置いて出る。玄関まで来たが鍵がかかっており外に出られない。困っていると他の部屋の人が来て、横のボタンを押してくれた。我々だけだったら、どうしたことかと不安になる。

今朝は涼しいのを乗り越して寒い位だ。早く駅に着く。一本早い7時28分発に乗れるので、乗ってしまう。例によって、ホームより電車位置は高い。スーツケースを持ち上げるのは大変。5分でサンピエール・デ・コールに着く。

7時55分発のTGVでポアティエへ、さらに乗り換えて、ボルドーまで。昼ご飯は駅構内で、めずらしくメニューの見本があったので、それを見て、ペンネとスパゲッティをそれぞれ食べるが余り美味しなかった。



カルカッソンヌの城塞

ここからは Corail TéoZ（地方間の都市を結ぶ新型長距離列車）になる。この列車は全席予約だったのだが、それを知らずに乗っていて、検札の人に「ここは予約席だから、ツールーズからは、2等に移れ」と言われ、さらに20ユーロ払わされた。本当にツールーズで、予約の人が乗って来たので、ほかに空いている席はないかとうろろうろするが見つからず、仕方なく、荷物置き場のようなちょっと広いスペースがあったので、他の人、数人と30分ぐらい立っていた。座り込んでいる人もいた。ドイツバーンの時刻表を見ると、横に（subject to compulsory reservation）とある。これは「全席指定」という意味だった。ちゃんとそこまで見ておけばねえ。勉強になりました。TGVの予約は日本で出来ます。しかしそれ以外の列車は難しい。現地で直接購入になるので駅で並ばなければなりません。ところがいつ見てもチケット売り場は並んでいる人でいっぱいです。とても買う気になれません。



ホテルの本館前



別館前

カルカッソヌでは余り降りる人はいなかった。バリアフリーではなく、階段を上ったり降りたり、荷物を持っているとこたえます。しかも駅前にタクシー乗り場がありません。遙か彼方にタクシーらしき車が見えたので、夫に呼んで来て貰った。荷物持って、そこまで行くのは大変。なぜ、そんな遠いところにタクシー乗り場が有るのか。プンプン。

タクシー代は6.7ユーロに荷物代2ユーロ。町中を通り抜け、城壁の入り口でタクシーはお終り。城壁の中（シテ）は専用車のみ通行可。ホテルの人が来ていて、我々を確認すると、さらに小さいホテルの専用車で、すれすれの狭い道を上っていく。5分やっとホテルの入口へ、ここでチェックインを済ませる。われわれの部屋は、さらに車に乗って1分。別館といったところでしょうか。

気温は高く暑い、日影は涼しい。ホテルはベストヴェスタン・ル・ドンジョン。シテのほぼ中心に有るホテルで、お化け屋敷の隣だった。時々キャーと悲鳴が聞こえた。

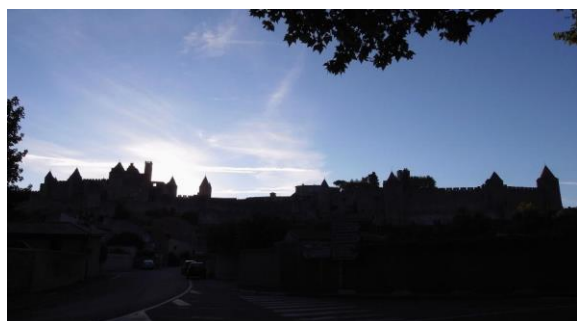


晩ご飯は「地球の歩き方」にも載っている「オーベルジュ・ドゥ・ダム・カラカス」2回グルグル回ってやっと発見。結局、ホテルから割合近い所にあった。15ユーロで、サラダとメインとデザート、

これにはパンと水もついてた。量が多く大変だ。明日のタクシーの予約をして、暗くなるのを待って、ライトアップされた、城壁を見に行く。なかなか暗くならない。10時ぐらいまで待つ。



ライトアップされたカルッカソンの城壁



早朝のカルッカソンヌ



城壁内の回廊



シテ内の広場、お土産さんが立ち並ぶ

9/1（水）快晴

カルカッソンヌ→ナルボンヌ→ニーム→アヴィニオン

朝、涼しい、肌寒い位。7時過ぎ、朝食。本館の食堂まで歩く。牛乳が甘く、濃く、おいしい。8時城壁の外、川のそばまで歩き、眺める。城内見学は10時からなのだが、少し前、すでに15人位並んでいる。やっと開いて、それから、切符を買って(8.5ユーロ)中に入る。ぐらりと回る。さらに外側の城壁を回って降りると城内の下の方へ出てきた。ホテルに戻り、言われたとおり、11時半に電話をして、玄関で待っていると、ホテルの迎えの車が来て本館に行き、支払いを済ませ、タクシー乗り場まで送って貰う。タクシーは既に来ていて駅まで、8ユーロ。

電車は12時48分発。まだ時間があるので、乗るつもり of 電車を電光掲示板で確認し、すぐそばの川べりでのんびりしてから戻ると予定の電車が電光掲示板から消えていた。何だか様子がおかしい。途中駅のナルボンヌ行きの電車があるはずなのでホームに行ってみる。駅員さん（女性）がいるので聞いてみると「バスでナルボンヌまでへ行け」と告げている。何かあったらしい。言われた通りのバス乗り場へ行くと既にバスが2台とまっていた。どうやらバスによる振り替え輸送のようだ。窓口で困っていたイギリス人らしい人も我々が乗ろうとしていた電車の切符を持っている。事故があつて電車が止まってしまったようだ。

荷物をバスに入れて貰い、乗って待っていると、12時45分発のナルボンヌ行きの電車が到着。しかしお客はここで降ろされて、こちらのバスにやって来た。結局バス3台でナルボンヌに向かうこととなった。電車だと約1時間であるが、バスだから、1時間半から2時間は覚悟していたけれど幸い約1時間で到着した。ナルボンヌ駅では14時10分発ニーム行きに乗ればいいと教えられ、しばらく待たされ、結局14時35分頃電車はニームに向けて出発した。TGVなども遅れていたようだ。ニームでアヴィニオン行きを待つ。ここで、駅員さんに理由を聞いてみると“fire”だと言った。しかし“fire”が何を意味するのか結局分からなかった。16時35分電車に乗り、やっとアヴィニオンに到着。



アヴィニオン法王庁の城壁（ホテルの窓から）

駅から徒歩でホテルへ。しかしホテル予約サイトの **Booking.com** の地図が間違っており、反対側に行ってしまう。近くを歩いていたおばさんに聞きやっとなホテルに到着。駅からはほんの2、3分の距離だった。とても大きな部屋で、ダブルベッドが2つ更にもう1部屋がある。これで、曜日によって値段が違うが1泊118ユーロから138ユーロはリーズナブル。

アヴィニオンの街は大きな城壁に囲まれている。ホテルと駅は城壁のすぐ外側にある。城壁の中にあるカルフルで買い物をして帰る。

9 / 2 (木) 快晴

9時頃出発して、法王庁宮殿とサン・ベネゼ橋を目指す。法王庁で、橋との共通券を買う1人15ユーロ。法王庁宮殿はローマ法王が一時期ここに住んでいたことがあるのだ。しかし中はフランス革命時に荒らされて見るべきものはほとんど残されていない。

高い所に上るとあの歌「アヴィニョンの橋で踊ろよ、踊ろよ」で有名な橋が良く見えた。



法王庁宮殿



宮殿前のモニュメント（象の逆立ち）



サン・ベネゼ橋とローヌ河



宮殿内の彫刻



法王庁城壁入り口



サン・ベネゼ橋の上



ローヌ河

橋の上から法王庁を望む

法王庁内の INFO で聞いておいたポン・デュ・ガール（ローマの水道橋）行き 11 時 40 分発のバスに乗れそうな気がしたので、急いで長距離バス乗り場まで歩いた。30 分ぐらい急ぎ足で歩いて間に合った。乗り場がよく分からなかったがそばにいたシスターが丁寧に教えてくれた。



ポン・デュ・ガール（古代ローマの水道橋）

11 時 45 分発。30 分ぐらい乗ると「此处だ」と降ろされてしまった。「あとはその道を歩け」とバスの運転手さんが指さしてバスは行ってしまった。降りたのは我々のみ。心細くなる。橋は見えないし、何も案内がないのだ。とぼとぼと歩くこと 10 分、やっとそれらしき建物が見えてきた。

そこは、駐車場が広くて観光バスや、乗用車がいっぱい駐まっていた。何故路線バスはここまで来ないの。その建物とはさしずめポンドュガールセンターといったところだろうか。カフェで、サンドとサラダ等を買って昼ご飯。ここから、さらに 7～8 分歩くとやっと橋が見えてきた。日本人ツアー客何組かとすれ違った。

しばらく、橋を眺めて 15 時 22 分発のバスで戻ることにした。バス乗り場は先程降りたバス停の反対側。しかし、待てど暮らせどバスは来ない。バス停の時刻表をよく見るとこの時間のバスは載っていない。でもアヴィニョンの INFO でさっき教えて貰ったのだから間違いないと思いバスを待つ。



ポン・デュ・ガール（家族で川遊びをしている人達がいた）

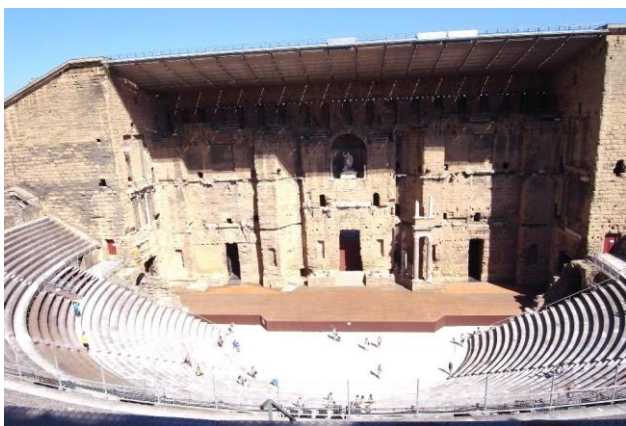
いっしょに待っていた英国人が一人いたが諦めて歩いて何処かに行ってしまった。我々もついに諦めて近くにあったドライブインでコーヒブレイク。お店の人にバスのこと聞いてみたがよく分からないらしい。仕方なく、先程のセンターにとぼとぼと戻り、そこにあった INFO で聞いてみる。

バスが来なかったという、インターネットで調べてくれた。次の17時35分発は確実に来ると教えてくれた。どうやら、9月に入り、時刻表が変わったのだ。8月の時刻表をアヴィニョンの INFO の人はくれたのだった。ひどい！

バスは1時間先だが早めにバス停に行った。夫は「バスが時間より早く来ることはない」なんていていたけど。マレーシア人の家族がもう既にバスを待っていた。我々に行き先を聞いてきた。彼らも我々と同じく来はずのないバスを待っていたようで、次のバスが本当に来るかどうか心配しているようだった。

バスは早めにやってきた。良かった。やっとバスに乗れ、ほっとした。

バス代はすごく安い。30分以上乗って1人1.5ユーロ。次の駅で女学生が沢山乗ってきた。町中を通り、バスセンターのような所でマレーシア人家族は降りた。ホテルか駅でもあるのだろうか。かなりスピードを出して走り、我々のホテルのすぐ前で停まったのであわてて降りた。やれやれ、無事帰ることが出来た。もしこのバスが来なかったら、どうなっていたかと思うとぞっとした。例の所、タクシー乗り場もなかった。路線バスで行く人はいないのかしら。とても疲れた一日だった。



オランジュ 古代ローマ遺跡、古代劇場



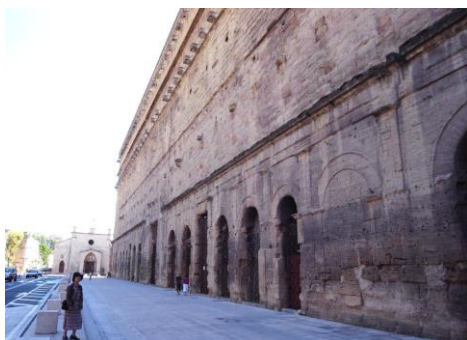
中央のアウグストゥスの像

9／3（金）快晴

疲れがたまっていたので、今日は近くのアラントジュだけ行くことにした。

10時12分発約12分で到着。淋しい駅だった。バスはトイレにいつている間にバス行ってしまったようで歩くことにした。1本道を行くと川に突き当たり、さらに歩くとすぐ、劇場は見つかった。舞台背後の石壁が残っている劇場で、今でも使われているようだ。プチトランが目の前にとまったので、12時発に乗ることにした。劇場を上から見るところまで行き、さらにカエサル戦争記念凱旋門を巡り駅戻った。

駅へ戻る途中のレストランで昼食。前菜、メイン、デザートで、15ユーロなので、1人前とワインとビールで、31ユーロ。1人前だけ頼むと変な顔をされたけど、これにパンもつくので、2人で食べてもお腹いっぱいになってしまう。バターライスと白身魚のホイル焼きはとてもおいしかった。デザートは焼きプリンだったけど、4人前ぐらいありそうなどとても大きなものだった。何気なく入ったレストランがすばらしかった。14時31分発の電車で戻る。今日はトラブルなし。ただ、とても暑かった。でも今年の日本の猛暑に比べたら大したことはないかな。



劇場の裏側



日本語ガイド有り



カエサルの 凱旋門



プチトランの運転席に座る



何気なく入ったレストランとても美味しかった

9 / 4 (土) 晴れ

アヴィニョン→リヨン→アンベニユウ→ベルガール→サンジェルヴェ・バーン→シャモニー・モンブラン

ホテル近くのバス乗り場からTGV駅まで、約10分。新しく出来た駅のように、ガラス張りのモダンな駅舎だがバス停から少し歩かされた。しかもスロープが遠かったので、結局、階段を荷物を持って上ることになった。ホームは上の階で、板張りだ。

9時18分発の電車に乗る。座席番号は上に書いてあると思い、上ばかり見ていたけれど見つからない。すでに座っていたおじさんがシートの背もたれにあると教えてくれた。2人がけで、椅子も座り心地がよかった。最新車両かもしれない。リヨンからはローカル線になる。アンベニユウ、さらにベルガールで降りた。



途中駅のベルガール駅

ここは、エヴィアン（あのペットボトルの水エヴィアンらしい）行きとジュネーブ行きと電車が連結を離す。間違えて乗った人が大勢乗り換えていた。何の表示もないものだから、フランス人だって、間違えるよね。それぞれ、電車の外側に何か書いていてくれればいいのに。ずいぶん淋しい駅だけれど乗換え駅だから、設備は結構ちゃんとしている。

サンドイッチを買ってお昼にした。夫が見つけて来たパンフレットにはこれから乗る電車の時刻は載っていない。INFO で確認してみると、電光掲示板に載っているのだから大丈夫といわれた。これも月が変わっているのに古い時刻表なのか？ただ、路線図は役に役立ちました。この辺りはスイスとの国境がすぐ近くでとても複雑なのです。

サンジェルヴェ・レ・バーンですぐ向かいの電車に乗り換える。窓の大きい登山電車になった。



車窓からアルプスの山並みが見えてきた

1つ1つ駅に停まりながら、山を登っていく。途中綺麗な景色を見ながら、16時42分やっとシャモニーに着いた。タクシー17ユーロ。レ・バルコン・ドゥ・サヴォイ。9月に入りホテルが空いていたので、同一料金で広い部屋をサービスしてくれた。2DKといったところで、キッチンも広く、今までで一番良かったような気がする。1泊100ユーロは安い。スーパーを教えて貰う。スーパーUは大きくて、品数も多い。大勢の人で、ごったがえしていた。山の中なのに海の魚も結構おいてあった。下の階に行くにはスロープで、行くことになる。ビールや水などの飲み物は6個パックのままなので、欲しい分だけ、自分でビニールパックを破ってとる。日本の習慣から抜け出せなくて、すでに開けてものから取った。

メロンはよく見かけたのだが、初めの頃はかぼちゃと思っていた。大きさがカボチャぐらいで、スイカのような縞があるからだ。レストランのデザートに出てくるメロンと分かる。1.3ユーロぐらいで、安かった。チーズ（山羊、牛）も安くておいしかった。

パン屋さんで買ったカルメ焼きのような、お菓子も美味しかった。ホテルは夜も開いているドアがあるので安心だ。窓の外は広々とした芝生広場で近道してホテルに戻る人がすぐそばを通るのが玉に傷だが、とてもものんびりしている。



ホテルの部屋

とても広々していて快適だった

9 / 5 (日) 晴れ

早朝、ハンググライダーの鳥人が次々アルプスの峰から舞い降りてきた。着地成功で、思わず拍手。

9時出発。プレヴァン（標高2525m）行きのロープウェイに乗る。途中プランプランまでは4人乗りのゴンドラ。ここにハンググライダーの基地があり、どんどん下に向かって降りていく。2人乗りはプロがお客さんを前に乗せて行くようだ。さらに乗りついで、頂上へ、正面にモンブランが見える。ボッソン氷河もすばらしい。先のとがった山がいっぱい。アルプスはすごい。一昨年は山を歩いて下ったが、今年はその元気がなかった。またロープウェイに乗って降りた。往復1人20ユーロ。

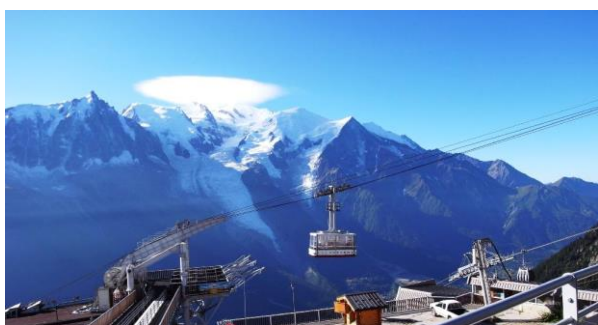
ホテル前の広場の地下は駐車場になっている。また午前中はハンググライダーの着地点のようで、みなここを目指して降りてくる。午後からは風向きがかわるようで、降りてこなくなった。ただただ山を眺めているだけで気持ちがいい



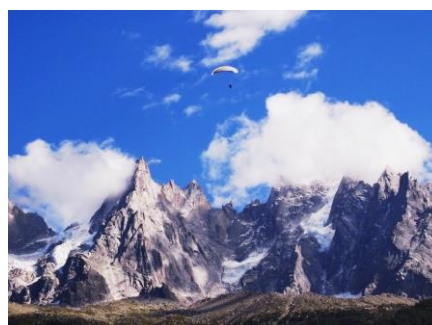
テラスからアルプスが見える



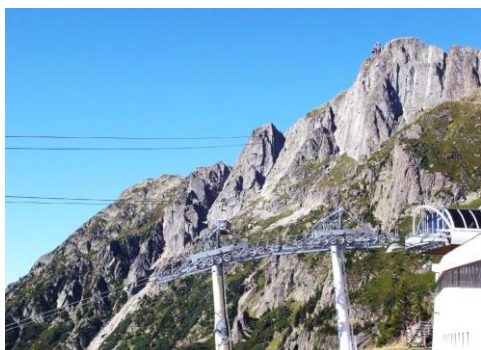
ホテル前の広場にハンググライダーが着陸



プレヴァン（標高2525m）行きのロープウェイ



ヴェルト針峰を背景に飛ぶハンググライダー





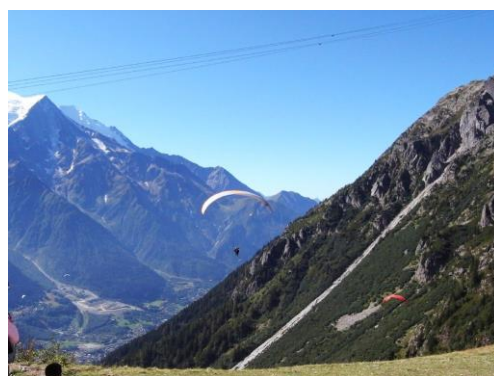
白いヘルメットがお客様 これから二人で飛びます



風をはらんで



離陸成功



空中散歩



傘をかぶったモンブラン



奥に光りが当たっているのがモンブラン



右端がエギュイユ・ミディー



モンブランを指さすパルマとソシュールの像

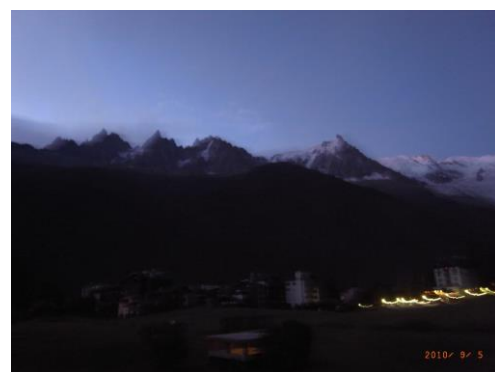


シャモニの町中アルヴ河沿いの通り

明日のために駅まで行くための、バス停を探しに行く。2種類あるようだ。10分ごとに走っているという Mulet に乗ることにする。このバスのことをホテルでは教えてくれなかった。夜、星がたくさん出ていた。ギュイユ・ミディー山頂にあるホテルの明かりが見える。



夜は US オープンテニスをテレビで



エギュイユ・ミディーのシルエットが幻想的



垂直の壁



よく見るとクライマーが奮闘中

9／6（月）曇り

シャモニー・モンブラン→サンジェルヴェ・レ・バーン→アンネメス→ベルガール→リヨン・パール
デュー

歩いても良いと思って早めに出ることにした。バス停のところまで坂道を下って2、3分で到着。ベンチで待っていたら、すぐバスが来た。5分ぐらいで駅に到着。バス代はフリーとのこと。1時間以上時間があつたので、近くのお店を覗いて、10時38分発に乗る。

2日前に通ったリヨンへ戻ることになる。サンジェルヴェ・レ・バーンで、登山電車から、乗り換える。同じホームの反対側なので、楽だ。ジュネーブ行きで、アンネメスで、リヨン行きに乗り換える。ここはホームが違うので、荷物を持った人が大勢階段を降りたり上ったり。やっと来た電車は満員だ。1等車で、初めて長い間立ったままだった。大きな犬を乗せている人もいる。おとなしかったが、一度ちょっと吠えたら口輪をされた

ベルガールで大勢降りてやっと座れた。14時47分リヨン到着。リyonは大きな駅だ。ここでも迷彩服に銃を持った軍人が3人で、パトロールしていた。ホテルまでは遠いようなので、タクシーに乗った。11.1ユーロ。だんだんにぎやかな所から、遠ざかって行き寂しいところを通る。もうがっくりだ。部屋もさほど広くない。レジデンス・ホテリエール・オダリス・ビオパール。



ホテルから見た景色（左の建物：病院）



ホテルの玄関

一休みした後、旧市街を見に行くことにする。フロントで聞いた28番のバスに乗った。リヨン駅が終点で目的地のフルヴィエールの丘までは再度バスに乗らなければならなかった。駅から歩いてもう遠くないと思って歩きましたがなかなか行き着かない。ローヌ河、そこを目指して歩いていると幸運にもタクシー乗り場を発見し乗ることが出来た。丘の上のフルヴィエールまで、8ユーロ。ローヌ河を越えると新市街、ソーヌ河を越えると旧市街で急坂を登り切った所に大きな教会がある。とても歩ける距離ではなかった。



フルヴィエールの丘から眺めたリヨン市街 手前ソーヌ河、向こうにローヌ河

上から見るリヨンの町は赤い屋根でとても綺麗だ。そこにある教会はノートルダム・ド・フルヴィエールバジリカ聖堂だがそんなに古くはない。

教会の道路をはさんで反対側にMのマークを見つけた。メトロのMだ。これで、謎が解けた。ケーブルと書いてあるのに、地下鉄なのが。地下を通るケーブルだったのだ。これに乗って、丘の麓の駅ヴィユーリヨンに出た。振り返ってみると、とても分かりにくい駅の入口である。小さいMのマークが有るだけでまるで普通のビルの入口のようだった。

レストランの並ぶ路地で、夕食。サラダ、メイン（白身魚のスフレ）デザートで15ユーロ。美食の街リヨンにしてはそんなに美味しくなかった。ウエートレスにお釣りを少なく渡されそうになる。どうやら、これは確信犯のようだ。帰りは先程のケーブルの駅が他の地下鉄も来ていることを確認し、D路線でホテルのすぐそばの駅アムブロワーズパレで降りる。



地下を走るケーブル



フルヴィエールの丘の上の聖堂



フルヴィエールの丘 ノートルダム・ド・フルヴィエールバジリカ聖堂

9／7（火）雨

今回の旅行で初めて本格的に雨が降った。今日はジュネーブに行くつもりでホテルを出発。28番のバスで駅へ行くが、ジュネーブ行きの電車が電光掲示板に載っていない。近くの駅員に聞くとストライキなので、バスで行けと言う。バスが停まっている所に行ってみるがジュネーブ行きのバスが見つからない。時間ぎりぎりだったので、行ってしまったのかもしれない。

ジュネーブ行きは諦め、リヨン市内観光の2階建てバスに乗ることにした。INFOで聞くと街の中心ベルクール広場で乗ることが出来ると教えてくれた。地下鉄を乗り継いで広場に行く。切符の買い方を教えてもらい、地下鉄にもだんだん慣れてきた。バスの時間は10時15分だ。「ストライキなので時間通り来るかなあ」と言われた。まだ時間があるので、リヨンのINFOお勧めのカフェでコーヒースタレイク。ケーキは日本の2倍ぐらい。但しお味は日本のケーキの方が美味しい（3.5ユーロ／個）。店員は中国人だった。バス乗り場に行くともうすでに2階建て観光バスは既に停まっていた。2階は天井がない。雨なので、天井のある1階はすぐ満員になった。

少し雨が、小降りになったので、フルヴィエールの丘で降りて散策し、次のバスに乗ることにする。散歩道を15分ぐらい歩いていると、本降りになってきた。次のバス停を探しうろろしていると、すぐバスがきたので、乗せて貰う。ここはバス停ではないというようなことを言っていたけど乗せてくれた。何故か我々以外だれも乗っていない。そういえば、時刻表に書いてある時刻より、少し早く来たような気がする。そのままずっと走り、川を渡ってしばらくするとここで降りろと言われた。「前の道路で、ポリスがストップしている」とか言っている。仕方なく歩いて広場まで迷いながら戻ると人がいっぱい。デモの終点だったらしい。

朝見たとき近くにピザショップがあったので、そこで昼にすることにした。しかし運悪く直前にデモが解散となり人々が流れてきたので店内はいっぱい。でももう他のレストランに行く元気もなく、しばらく待って入った。ピザとサラダと水1人前で24.5ユーロ。ピザは30cmはあろうかという大きなもの。地元の女の人は1枚ぺろりと食べていたけどー。



雨のリヨン



大きなピザ

もう一度バスに乗れるかとバス停に行ってみたけど、だれも待っていないし、バスもないので、あきらめて帰った。今考えると、ポリスがストップしているとは、警察がデモのため交通規制していたのだと分かった。びしょ濡れでさんざんな一日でした。

フランスではタクシーの運転手さん、バスの運転手さんも音楽かけながら運転しています。バス、トラム、地下鉄は結構人が乗っています。ドイツのときのような空いた感じはない。道路も結構混んでいる。リヨンの地下鉄は無人運転でした。夜中雷が鳴っていた。土砂降りだった。

9/8（水）晴れ

リヨン・パールデュー→パリ

TGVは12時発なので、昨日行けなかったもう一つのケーブルカーに乗ることにする。地下鉄に乗り、リヨンヴェーで降りケーブルでサンジュストまで。駅から少し下ると素晴らしいヴェューポイントがありリヨン旧市街が一望出来た。更に下ると、ローマの遺跡、劇場跡などもあった。朝のリヨンの町は昨日と違って良い天気で、とても美しかった。



ソーヌ河とリヨン市街

古代ローマの円形劇場



丘の上にあるローマの遺跡



リヨン駅構内

今度のTGVは2階建ての2階席で、席はとてもゆったりとしていて、座り心地もよかった。2時間で、パリ・リヨン駅へ。ややこしや、ややこしや。ここは、パリのリヨン駅なのだ。地下鉄1本でジョルジュ・サンクへ。地下から、出ると外は冷たい雨が降っていた。雨宿りしてどうしたものか思案する。ホテルはシャンゼリゼ通りに面しているはずなのだが、見つからない。夫が探しに行く。住所の74番という番号を見つけると新聞などを売っているお店の人に聞いてきた。やっと見つけることができた。

入口は狭いが中は広い。とても綺麗なホテルだ。ここは、申し込んだ時点で、料金は引き落とされている。フレイザースイーツ・ル・クラリッジ・シャンゼリゼこれはホテルの名前です。スーパーはシャンゼリゼ通りに有るのだが、外からは、普通のファッション関係の店の様にしか見えない。



シャンゼリゼ通りのホテルの中庭

夜7時過ぎ、ジョルジュサンク通りを通りセーヌ川につきあたる。そこにバトームッシュの乗り場がある。観光バスもいっぱい停まっている。ただ、観光の船は人でいっぱいだ。我々はもう一つの赤絨毯の入口から入る。もうすでに乗っている人がいる。順番に船に案内される。すぐシャンペンが運ばれてきた。この船はセーヌを約2時間掛けて移動する。

船はまばゆいほどの光を付けている。中はほの暗い。生演奏のバックグランドミュージックの流れる中で豪華ディナーをいただく。初めてのことです。いろいろな国の音楽が流れる中、日本の音楽もあった。それは「里の秋」だった。川から見るパリの街は格別だ。案内では、男性はネクタイ着用とあったが、夫を含めネクタイ着用は少数派であった。



アルマ橋付近のバトームッシュの案内板



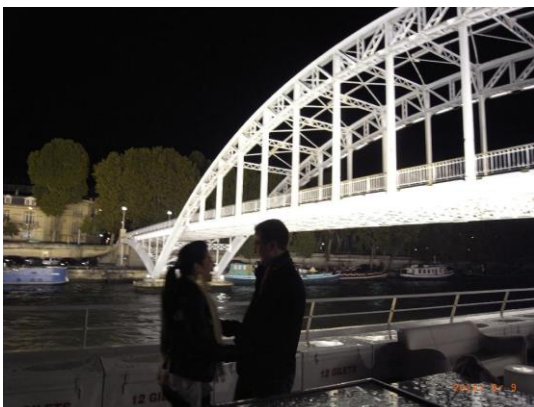
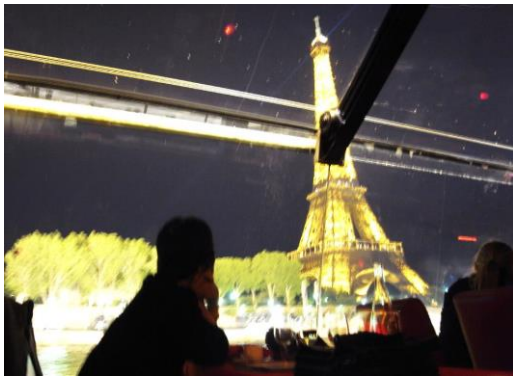
バトームッシュの中



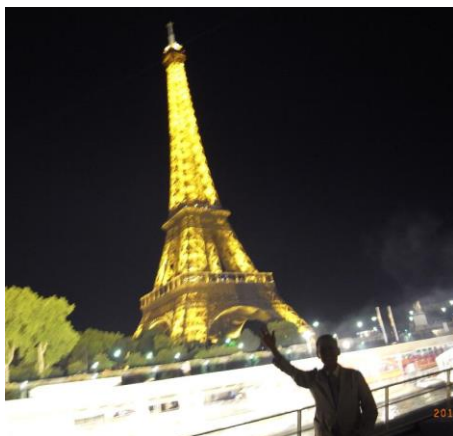
コンシェルジュリー



自由の女神像



ディナーが終わって、タクシー乗り場はすぐそばのロータリーにあった。すぐに乗ることが出来た。



9 / 9 (木) 晴れ

いよいよ帰国する日だ。7時45分出発。タクシーはホテルの人が外で拾ってくれた。パリ北駅へ。途中、車は多かったが、15分ぐらいで着いた。しかし、北駅は最初に来た時の印象通り、解りにくい。飛行機マークを見ながら進むが、途中でマークが消えたりしてうろうろしてしまう。中2階が曲者なのだ。ここに降りてしまうとどこへも行けなくなってしまうのだ。やっと下に行くエスカレーターをみつけた。しかし、自動改札しかなくて困った。すぐそばに窓口があったので、その人に切符を見せて開けてもらった。43番乗り場だといわれ、さらに下の階に行く。どういう訳かそこへ行くエスカレーターがストップしていて、荷物を持って階段を降りることとなる。

やっとの思いで、行くとホームに到着。でも人でいっぱい。なんだか嫌な予感。何かあったのかしら、と不安になる。さらに停まっている電車も満員だ。これは無理だ、次の電車に乗ろうと思っていたら、その電車に乗っていた人が何故か大勢降りてしまった。またまた訳がわからない。大きな旅行鞆を持った人達が足早に何処かに消えていったので不安になった。バスに切り替えたのか？並んでいる人に聞くと次の電車に乗れと言う。そして、目の前の電車はドアが閉まりそのまま行ってしまった。次の電車が来たけれど、その人はこれは飛行場行きではないと言う。隣にいた人が「何かあったみたいだ、掲示板を見て空港行きというのに乗りなさい」と教えてくれた。次に来たのは大丈夫、空港行きだった。電車は意外にも空いていた。夫は諦めてタクシーで行こうと言い出したが、待っていてよかった。だいたい最初からタクシーで行けばよかったのにといいながら……。でもあれだけ大勢いた人達は一体どこへ行ったのか？

各駅停車だったので、少し時間がかかったが20分ぐらいで無事シャルル・ドゴール空港に到着。

最後まで、乗り物に関してはハラハラ、ドキドキさせられたフランス鉄道の旅でした。帰りの飛行機は少し空いていて、我々の席は狭かったのですが、前が壁の席に変えてもらいました。ここは少し広くて、最後は快適な空の旅でした。

F I N